

## 東京都看護協会新会館がオープン こもれびあふれる開放的な交流空間が実現

2019年4月、東京都看護協会（会員数4万9000人）の新会館が完成し、5月30日に落成式が執り行われた。

これまでの飯田橋から東京都庁にほど近い西新宿へと移転、東京都からの受託事業である「東京都ナースプラザ」に加え「東京都訪問看護ステーション協会」「東京都助産師会」と看護に関わる職能団体が集う拠点が完成した。

### 看護の「知の拠点」に

落成式はファッションデザイナーのコシノジュンコ氏がプロデューサーを務め、日本舞踊家の三代目花柳寿楽氏による演舞で華々しく幕を開けた。式辞に立った同協会長・山元恵子氏は、「人生100年時代のあらゆる場面であらゆる人々への質の高い看護の提供が求められる」と述べ、看護の重要性を強調するとともに、新会館が地域との交流の場ともなることへの期待を寄せ、看護の「知の拠点」として発展させていくことを宣言した。

その後、小池百合子東京都知事、福井トシ子日本看護協会会長、尾崎治夫東京都医師会会長による祝辞が続いた。小池知事は、「人口減少、超高齢化が進む時代、安心して年を重ねることができ、都民1人ひとりが輝くまちづくりのために

は、看護の力が大切になる。子育て中の看護師や、潜在看護師が現場に復帰するためのサポートを行うとともに、地域包括ケアシステムの推進に向けて、これまで以上に都庁と都看護協の連携を図っていききたい」と述べた。

### 「こもれび」の中で 会員が集い合い、高め合う

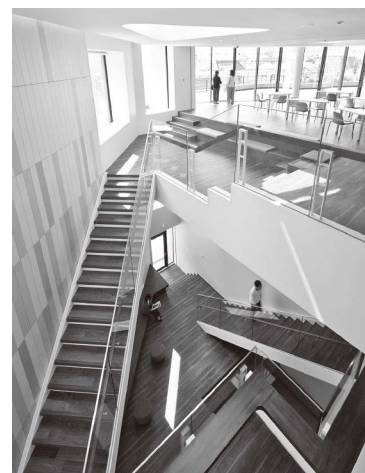
新会館では、会員や地域の住民から信頼され親しまれる活動を展開し、地域に向けた情報発信を行っていく。6階建ての館内には、2階から4階にかけて特徴的な吹き抜けを設け、コンセプトである「こもれび」がふりそそぐ空間が実現した。また、大規模な研修や講演会が行える研修室や会議室が用意されている。図書館には豊富な蔵書と、自由閲覧スペースを確保し、会員の学習環境を整えた。

また、耐震構造や備蓄倉庫など、災害発生時の帰宅困難者の受け入れを含めた災害対策にも万全を期している。

### 豊かな心に根ざしたケアの 実践につながる癒しの空間

2020年は、ナイチンゲールの生誕200周年。彼女は「看護はサイエンスでありアートである」と述べた。日々慌ただしい医療現場で働き続ける看護師にとって、アートに触れて感性を研ぎ澄ます時間は、個人としての自分に立ち返ったり、新たなケアを創造したりするために必要な時間ではないだろうか。

このような中、新会館の各フロアには「アール・ブリュット」のオブジェや絵画作品を展示している。「アール・ブリュット」とは、フランス人画家ジャン・デュビュッフェ（Jean Dubuffet）により創出された概念で、アール（art）は「芸術」、ブリュット（brut）は「磨かれていない」「（加工されていない）生のままの」という意味で、「生（き）の



光にあふれた吹き抜けの様子



式辞を述べる山元会長

芸術」と呼ばれる。美術の専門教育を受けていない人々が独自の方法と発想により制作された芸術作品を指しており、さまざまな規制にとらわれることなく、人の内面に素直に宿った感性が表現されていることから、観る人それぞれに感動や気づきを与えてくれるだろう。

これらの美術作品は、NPO法人キャンサーリボンズ「サンクスナース」プロジェクトと社会福祉法人愛成会の協力のもと、定期的に作品を架け替えながら2020年8月間展示される予定。

新会館はこれらの作品を通じて、さまざまな人々の価値観に触れられ、豊かな心を育み、生きるエネルギーや感謝の気持ちをもって、尊厳あるケアに立ち戻れるような癒しの空間となっていくだろう。（本誌編集室）



東京都看護協会のシンボルマークとロゴタイプも一新された。「命に向き合うあなたを支えたい」という看護職の思いを、2人の人物をモチーフとした形を組み合わせることで表現。併せて「サポートする」「ネットワークを創る」というイメージも表すとともに、看護の頭文字Kにも見えるようなデザインになった。